

歯髄失活除痛法の歴史から正しい使用法、術式までを解説!

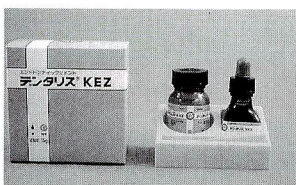
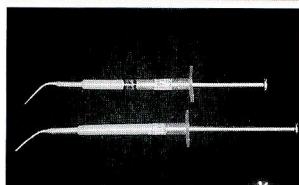
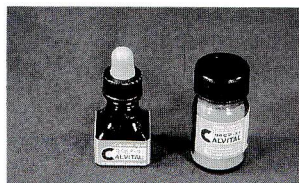
歯髄失活除痛法を顧みる

新刊

東京歯科大学名誉教授 長谷川正康 著

● B5 判 88頁 ● 定価 7,210円(税込)

歯髄失活除痛法は
前世紀の遺物なのか、
歴史的な処置法なのか。
応用の可能性を、今、再考!!



目次

まえがき

1. 歯牙保存療法への亜ヒ酸糊剤導入への起源
 2. 三酸化ヒ素の作用機序について
 3. パラホルム糊剤について
 4. 三酸化ヒ素糊剤の処方について
 5. パラホルムパスタの処方について
 6. 三酸化ヒ素糊剤とパラホルム糊剤の作用
 7. 失活剤貼布に際しての注意
 8. 抜髄に際して特に注意すべき事項
 9. 失活抜髄後と麻酔抜髄後の治癒機転の相違について
 10. 私が使用している糊剤根管充填剤
 11. 失活抜髄と麻酔抜髄の臨床上の相違点
 12. 失活抜髄後に歯根膜炎が起きたら
 13. 抜髄後に発現する歯髄炎
 14. 失活歯髄切断法について
 15. X線フィルムによる臨床経過観察
 16. 失活歯髄切断法の治癒機転について
- おわりに

局所麻酔法による除痛法が応用できない、また危険を伴うような全身疾患をもつ患者には、この処置法を正しく応用するならば、全身不快症状はもちろん、局所的不快事項からも逃れられる長所をもっている。

